

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・市の学力調査の結果から、事柄や順序を考えて書く、推敲する、文章を正しく書くことは、全国と比べて得点率が低い結果であり、当該学年児童も上述のように、その領域に課題が見られる児童は1、2割である。 ・自分は何ができて、何ができていないかを整理し、次にどのようにすれば良いかを考える自己調整力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く学習では、「はじめ→なか→おわり」の順序を意識させ、「楽しかった」のみだけでなく、何が、どのように楽しかったのか、詳しく事柄を書けるようにしていく。8割程度の児童が自分の力で詳しい文章を書けるようにする。 ・書いた文章を、ペアやグループなどで視点に沿って読み合い推敲する場面を多く設定したり、3行作文のように短い文章を書いたりするなど、スモールステップで取り組めるようにしていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・市の学力調査の結果から、たし算とひき算での2位数や3位数の筆算を正しく計算することに加え、筆算の一部を完成させる問題の得点率が低い結果であった。 ・三角形や四角形の得点率も低く、三角形や四角形の弁別や図形を回したり組み合わせたりして考えることに課題が見られる。 ・ひき算のくり下がりや数の構成に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の根拠や考え方について、なぜそのようになるのか、よりよい計算の仕方はないか、ペアやグループなどで具体物を用いて操作するなど算数的活動の場面を多く設定し、多面的に捉え、説明し合うようにする。 ・三角形や四角形の弁別や図形を回したり組み合わせたりして考えられるように、紙を折って図形を作ったり、形の特徴を説明したりする活動を取り入れる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や体験を楽しむことができる。学んだことを表現する力及び調べたことを実生活につなげることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点を具体的に示し、表現する場を多く設定し、高めていく。また、実生活につなげられるような声掛けや指導方法を工夫することに加え、ペアやグループなどで交流し、気づきの質を高められるようにしていく。
特別の 道徳 教科	<ul style="list-style-type: none"> ・内容項目について、多面的・多角的に捉えることに課題が見られる。また、「〇〇だった。」という段階の考えに留まってしまう児童が多く見られ、理由や根拠を示して考えを示すことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを深めるために、多様な価値観に触れ、考えが深まるように問いを設定したり、役割演技を取り入れるなど、指導方法を工夫していく。また、ペアやグループ交流で多様な考えに触れる機会を多くし、自分の考えを深めることができるようにする。